

第15回教育委員会（臨時）議事録

1. 開 会

令和2年3月27日（金） 13時30分

2. 場 所

市役所第2庁舎3階 2-301・302会議室

3. 会議に出席した委員

教育長 前川 修哉

委 員 酒井 克典

委 員 中村 貴子

委 員 垣内 敬造

委 員 井上 友香

4. 会議に出席した職員

部 長 稲山 悟

次 長 酒井 宏

教育総務課長 小林 康弘

学 事 課 長 森本 康幸

学校教育課長 尾松 直樹

東部学校給食センター所長 酒井 直隆

西部学校給食センター所長 齋藤 昭

社会教育課長 柏戸 隆弘

文化財課長 村上 由樹

中央図書館長 樋口 裕昭

田園交響ホール館長 小林 純一

こども未来課長 前中 斉

総 務 課 長 中筋 有香

教育総務課係長 田中 真紀子

教育総務課主事 河野 元秀

5. 議事日程及び議案

別紙の通り

6. 開会宣言

13時30分

7. 会 期

（自）令和2年3月27日

（至）令和2年3月27日 1日間

8. 会議録署名委員名簿

酒井 委員

9. 閉 会

14時45分

前川教育長 全委員 前川教育長	<p>日程第1、第13回(臨時)会議録の報告、承認について意見等はないか。 異議なし。 全員異議なしで、会議録をこのとおり承認する。</p> <p>日程第2、会議録署名委員は1番酒井委員とする。</p> <p>日程第3、会期は令和2年3月27日、本日1日間とする。</p>
前川教育長	<p>日程第4、報告事項に移る。報告1の「第120回丹波篠山市議会弥生会議一般質問について」教育総務課説明を求める。</p>
小林課長	<p>《議案書に基づき説明》</p>
前川教育長	<p>3名の議員から部活動に関する質問を受けた。それぞれに違った視点で丹波篠山市の部活動の問題点、課題点を質問いただいた。これからの時代を見据えた良い議論をできたと思う。</p>
酒井委員	<p>向井議員が再質問を行った「部活動のあり方検討プロジェクト会の望ましい体制について」の内容を具体的に教えてほしい。</p>
酒井次長	<p>これまで部活動のあり方を学校現場の教員と大学の有識者と教育委員会事務局職員で組織するプロジェクトチームで検討してきたが、今後の部活動のあり方を検討していく際には、地域の声や市長部局を含めた全市的な視点からの意見を取り入れることが望ましく、メンバー構成も再検討する必要があるのではないかという内容であった。「市全体で検討会メンバーを構成できるよう考えている。」という答弁をしている。</p>
前川教育長	<p>補足説明するが、部活動のあり方について市長部局と教育委員会では、答弁に若干の違いがある。市長の答弁では、「篠山東中学校の部活動に関する問題の解決を第一に図り、その後市全体の部活動のあり方を検討していく。」と答弁しているが、教育委員会としては、「篠山東中学校の部活動に関する問題を解決することも含めて、市全体の部活動のあり方を早急に検討していく」と答弁している。</p>
酒井委員	<p>今回の議案書を見るだけでは理解ができず質問をした。説明を聞いて理解ができた。</p>
前川教育長	<p>報告2の「第2期 ささっ子 子育て一番プラン～第2期丹波篠山市子ども・子育て支援事業計画～について」こども未来課説明を求める。</p>
前中課長	<p>《議案書に基づき説明》</p>
酒井委員	<p>前回のプランと今回のプランでは、保護者にどのような意識の変化が見られたのか。</p>

前中課長	前回のプラン作成時、業者に調査を委託しており詳細なデータや数値が手元にはない状況であった。そのため、前回と今回のプランで比較ができず検証ができない部分があったが、今回のプラン作成にかかる調査結果を見る限りでは、そこまで大きな変化がなかったと感じている。自由意見の中で、「進路選択の際は、子どもの意見を尊重したい」という保護者の意見があった。
酒井委員	幼児期から高校卒業まで系統立てた教育をしてほしい。また、教育研究所が発足されるので新たな取組も含めて検討を進めてほしい。
前川教育長	報告3の「臨時校園長会について」学校教育課説明を求める。
酒井次長	《議案書に基づき説明》
垣内委員	退職者の中で再任用となる職員はいるのか。
酒井次長	雇用形態がフルタイムの再任用職員は、今年度退職される方で、小学校1名、中学校2名を予定している。昨年度退職され、すでに再任用職員として勤務しており、令和2年度も引き続き勤務となるのが小学校で1名いる。また、事務職員では3名いる。
垣内委員	それは異動者数に含まれるのか。
酒井次長	先ほど報告した異動数は正規職員数であり、含まれない。
酒井委員	校長の配置については、最低3～5年程度は配置してほしい。1、2年では学校づくりは難しい。
酒井次長	指摘のとおり、学校づくりはすぐに結果が出るのではなく、複数年を要するので基本的には3～4年周期で異動を行う方針をもっている。
酒井委員	しかし、学校によっては校長が59歳で定年まで長くても2年しかないところもある。方針と異なるように感じるがそれについて教えてほしい。
酒井次長	先ほど述べた方針を持っているが、様々な状況を鑑みて、異動や職員配置をしている。定年延長が実施されているので、定年延長や再任用も含めて検討した結果が今回のような配置である。
前川教育長	従来の年数ベースでの配置変換ではなく、十分なヒアリングを行い、学校としての取り組みの達成状況や課題の解決が図れたタイミングで異動を行うような方向性を検討する時期にきていると思う。次長が発言したように、定年延長制度や再任用制度も含めて検討していく必要がある。
酒井委員	新型コロナウイルス感染症の対応について、休校措置の延長を政府発表の前に市としての方向性を出したように認識している。政府の発表と整合性は取れていたのか。 コロナウイルス感染症に関する休校措置は、スタートが首相の思い切りのように始まったこともあり、日本全体が混乱していたが、政府の判断に従うべきところ、各自治体で判断するところそれぞれある。休校延長措置については、文部科学省が方向性を発表することを事前に通知していたので、それを待つべきであったと思う。

酒井次長	市の対策本部協議を重ね、学校への指示は適切な時期に出さなければならないという判断に至り政府の発表前に市としての方向性を示した。逆に県や国に方向性を示すのが遅いと要望を出した。
前川教育長	政府の専門者会議の内容を随時把握し、今回の決断に至った。数日のタイムラグがあったが専門者会議の内容を踏まえて市としてあるべき対応を行った。
井上委員	ABC マラソンを中止と決定する際に市の医師会の代表が「この状況下で開催することは無謀である。」との意見があった。休校措置の延長判断についても学校医の意見を十分聞き、対応に至った。方向性を決定するときは、専門家の意見を十分に考慮して、危機管理上市民にできるだけ平常の生活を送れることを重要と考え対応した。
酒井委員	政府発表の前に、市が方向性を示したことは良かったと思う。学校が休校措置を延長することで様々な影響があるので、早めに判断してもらえることは有難い。正直に言うと、今回の発表でも遅いと感じていた。
酒井次長	国の学力状況調査は中止となったが、市の学力状況調査はどのようにするのか。
酒井委員	国の学力状況調査については、当初の日時で行わないことが発表された。延期の場合は再度通知があるとのことである。市の学力状況調査については、実施を予定しているが、国の学力状況調査の日時が改めて発表されるので、それに応じて流動的な対応となることを各校長へ伝えている。
酒井次長	先ほど説明があった内容を各学校から地域住民や児童生徒、保護者に通知してほしいと思う。
前川教育長	校長会では、保護者等に情報を周知するよう伝えている。
小林課長	報告4の「令和2年度丹波篠山市人事異動について」教育総務課説明を求め。
酒井委員	《議案書に基づき説明》
酒井次長	丹波篠山市全体の指導主事の人数は変更しているのか。
酒井委員	教育研究所に1名配置となり、市としては1名の増員となる。
稲山部長	教育委員会事務局の次長と教育研究所所長の兼務は非常に負担が大きいと思う。無理をせずに頑張してほしい。
垣内委員	教育研究所が発足されるため、所長と次長の兼任となり、負担の増加が予想される。次長の事務分掌を再考して対応したい。
小林課長	会計年度任用職員とはどのような雇用形態の職員であるのか。
前川教育長	非常勤嘱託員と呼称されていた職員が、令和2年度から制度の開始に伴い、会計年度任用職員に移行した。単年度の任用となるが、最長で3年の任用更新ができる。
前川教育長	それでは、第12回定例教育委員会をこれで終了する。

